

## 少人数セミナー「C.W.ニコルの”アファンの森”に学ぶ」

里山資源保全学分野 教授 柴田 昌三

前年度に引き続いて二回目の開講となった本少人数セミナーは、2007年8月12日～17日を中心に行われた。前年の担当教員の定年退職により、今年度は柴田が担当し、技術部の境技術長の支援を受けての実施となった。2007年度の受講生は、農学部森林科学科の学生が5名、総合人間学部および文学部の学生がそれぞれ1名、合計7名であり、男女比は、男子2名、女子5名であった。

前年度の報告では受講生の予習と積極的な交流態度の不足がホストであるニコル氏との意思疎通における障害となったことが述べられたことから、今年度は予習を重視し、出発前に日本の里山や森林植生の再生や森林管理に関する勉強会を開催した。さらに、アファンの森訪問の前日には、近隣の戸隠高原周辺の森林を見学した。訪問したのは長野県環境保全研究所、森林植物園、戸隠神社奥社である。環境保全研究所では里山管理に関する野心的な試みの現場を見学し、森林植物園では様々な植物を学習した。最後に訪れた戸隠神社奥社では、樹齢数百年の杉並木に大木の醸し出す荘厳さを体感した。

このような予習の後に、いよいよアファンの森を訪れた。予習が功を奏して、受講生たちは終始活発な討論をニコル氏と交わし、ニコル氏のボルテージも高まる一方であった。アファンの森での初日は森の見学に費やされた。二日目は午前中に妙高山の亜高山帯の森林を見学した後、午後にアファンの森を訪れ、ニコル氏から森林の一部を再生する計画を自ら立てるように求められた。受講生たちは自分たちで計画を策定し、夕方には森の中で計画の発表とそれに対する意見交換が行われた。最終日には彼らの計画に基づいて、森林管理作業を実際に行った。これらの交流は、ニコル氏のみならず、スタッフの松木氏や石井氏との関係を非常に深いものにすることができたと考えている。残念ながら最終日には受講生の一人が、作業中にハチに刺されるというハプニングもあったが、そのお見舞いとしてニコル氏から贈られたプレゼントは逆に彼を元気づけるものとなった。

今回のポケゼミ中は、アファンの森の近くに所在する”ラボランドくろひめ”にロッジを一軒借りて共同生活を行った。この試みは大成功で、引率者と受講生の親睦を深めることができた。また、興に乗ったニコル氏が三日目の夜に自ら調理されたテールスープの大鍋を抱えてロッジに現れ、楽しい一夜を送ることができたことは想定外の楽しみであった。



戸隠神社奥社杉並木



アファンの森でのニコル氏他アファンの森のスタッフとの討論会